2022 年度環境政策論Ⅱ　レポートについて

次頁に課題一覧を掲載しています。

【提出期間】

12 月 21 日（水）～　1 月 3 日（火）23 時59分

【字数制限】

1 問につき 1,500 字以内(表、グラフ、注、参考文献リストなどはこれに換算しない)

【問題数】

4問必須解答

※選択式ではありません。4問すべてに解答して下さい。いずれかの問題に解答しない場合は該当の問題の得点が 0 点になるので、注意して下さい。

〇 試験場での試験ではなく、レポートで、相当の時間を与えられているのですから、何を参考資料にしてもかまいませんが、自分で考えたことが分かる論述を展開し、＜これで合格するだろう＞程度のレベルではなく、自分で書けるベストの論述を提出してください。いわゆる＜copy and paste ＞は厳禁です。引用には出典を明記してください。
必要なら、多少の表、グラフ等を挿入してもかまいません。そのさい、これらは字数に含まれません。

課題一覧（いずれも 1500 字以内）

●家本講師、渡会講師、渡辺講師

パリ協定（2015 年採択、翌 2016 年発効）は気候変動問題に対応するための国際枠組みであり、世界共通の目標を達成するために全ての国が削減目標の提出や対策を実施することが求められている。

パリ協定の特徴および検討・実施の状況について、以下の 4 つのキーワードを用いて簡潔に述べなさい。

キーワード：「IPCC」、「UNFCCC」、「国が決定する貢献（NDC）」、「市場メカニズム」

また、パリ協定の目標を達成するための国際協力を通じた効果的な気候変動対策のあり方について、自身の考えを述べなさい。

文字数目安：パリ協定の特徴や検討・実施状況：500 字以上、1,000 字以内

国際協力を通じた気候変動対策のあり方：500 字以内

●森講師

サステナブル・ツーリズムはどのような考え方のもと世界で取り組まれてきているか、また今後どのような展開が想定され、そこにどんな成果を期待できるか、自身の考えを述べなさい。（字数制限1500字程度）

●日比講師

地球の生物多様性がどのように人間社会・経済に寄与しているかについて、生態系サービスの概念を使って記述してください。そして、あなた自身が享受している生態系サービスについて、個人的な経験やエピソードを交えて記述してください。

●川村講師

環境NGOの役割を、あなたが重要だと考える順に3つ列挙し、その順位にした理由を具体的に書いてください。
なお、環境NGOの果たすべき役割は次の5つの中から選んでください。
「人権擁護・政策提言」、「調査・研究」、「環境問題の理解促進」、「環境保全活動の実践と参加促進」、「マルチステークホルダーパートナーシップの形成」

【講評】家本講師・渡辺講師・渡会講師
前半の課題（事実理解・整理）：

・ほとんどの学生が 4 つのキーワードを用いて回答していた。(「IPCC」、「UNFCCC」、「国が決定する貢献（NDC)」、「市場メカニズム」)

・IPCC、UNFCCC 及びパリ協定の役割や関連性について正しく整理されている回答には加点した。また、パリ協定と京都議定書の違いについて整理されている回答にも加点した。事実誤認や不正確な解釈がされている回答には減点した。

・UFNCC（正しくは UNFCCC）や IPPC（正しくは IPCC）等、略語のスペルミスが散見された。「国連」=United Nations/UN が理解できていれば、UF～とは間違えないはず。

後半の課題（自身の考え）：

・先進国と途上国の異なる立場を踏まえて、自分なりの意見を記述している回答が多くみられた。

・自身の考えについて、背景や根拠を示したうえで、論理的に説明している回答には加点した。（根拠が示されず、「〇〇と思う。」といった感想だけを記述したものも散見された。）

・自身の考えが記述されていない回答は減点した。

・誤字や脱字が目立つレポートは減点対象とした。また、意味が通らない不完全な文章となっているものも減点とした。レポート提出前には自身が作成した文章を読み返す等、チェックする習慣を身につけて頂きたい。

OECC　家本・渡辺・渡会

【講評】森講師
環境政策論Ⅱ　2022 年度　レポート課題講評　森　高一

発問：
サステナブル・ツーリズムはどのような考え方の下、世界で取り組まれてきているか、また今後どのような展開が想定され、そこにどんな成果を期待できるか、自身の考えを述べなさい。（字数制限 1500 字程度）

講評：
全般に、授業で話した国連による 2005 年の定義を引用したり、また近年の JTB が出している解説を引くなど、サステナブル・ツーリズムについての基本的考え方はほとんど押さえられていた。加えて、「地域」を重視するポイントや、GSTC の国際的な認証の仕組み、日本における JSTS-D についても多くのレポートで記述されており、サステナブル・ツーリズムについて一定の理解がうかがえた。
具体的な展開やこれからの可能性についての論述を期待したが、その部分まで論考するものは半数程度にとどまった。中には独自に海外の事例を出し考察したり、国内でも身近な事例も引いて論樹する回答が見受けられ、ゼミなどほかの授業で取り組まれたのかパラオでの取り組みにふれるレポートが複数あった。
実際に自身の関わった地域と、今回のサステナブル・ツーリズムをつなげてとらえているものは高く評価したい。サステナブルに関わるローカルな課題と地球規模の課題の双方を論じることが望ましいが、一部の回答を除き、この視点が弱かったことが残念だった。

【講評】日比講師

課題：　地球の生物多様性がどのように人間社会・経済に寄与しているかについて、生態系サービスの概念を使って記述してください。そして、あなた自身が享受している生態系サービスについて、個人的な経験やエピソードを交えて記述してください。

講評：　課題の前半部分―地球の生物多様性がどのように人間社会・経済に寄与しているかについて、生態系サービスの概念を使って記述―については、みなさん基本的な理解は出来ているように見受けましたが、生態系サービスを 4 つのサービス（供給、調整、文化、基盤）から説明できていない場合には、減点対象としました。一方で、生態系サービスが生み出される要因・源として生物多様性を説明していたり、生態系サービスや生物多様性が持つ経済的価値、あるいは SDGs への貢献、さらには自然・生物多様性が現在直面する危機的な状況に言及している場合には加点しましたが、このように生態系サービスという概念の背景まで考察できている解答は少なかったように思います。

課題ではあえて「地球の生物多様性」として出題し、講義においても生態系サービスについて地球規模の視点からも生物多様性と社会・経済の関係性を考えてもらうことを意図しましたが（例えば、日本では食料含めて、多くの供給サービスは海外の生物多様性に依存していること、それらが危機的な状況にあることなど）、そこについて触れた解答は稀でした。

課題の後半部分―あなた自身が享受している生態系サービスについて、個人的な経験やエピソードを交えて記述してくださいーについても、ほぼすべての解答が、自分の個人的な経験等に結びつけて生態系サービスを具体的に例示できていて、生態系サービスの概念を概ね理解できていることを示しています。

特に印象的だった解答としては、自身が好きなファッションブランドについて調べ、原材料や加工方法などからそのブランドの商品がどのような生態系サービスに依存しているかを考察したり、そのブランドが取り組んでいるサステナビリティ活動について記述した解答などは、生態系サービスという概念を身近な生活の中での恵みと経済レベルでの便益の両方で考えてみた例で、SDGｓの達成に向けて人間社会が取り組むべき方向性について、自然資本的視点を与えるものであったと思います。

ただ、後半部分の解答は、その多くが「個人の印象・感想」レベルに留まっているものが多かったのが、少し残念でした。例えば、自然豊かなリゾートへ行って気分が良かった、というような解答が多く見受けられたのですが、訪問したリゾートの自然のどういう部分が特に自分にとって「気持ちよく」感じたのか、それがどのような生態系サービスによる便益なのか、さらに言えばそのような恵みを持続的に享受するためにどのような取り組みが今後必要となってくるか、など、身の回りの事象と生物多様性の関わりについて、より深く掘り下げていくようにしてもらえればと思います。

【講評】川村講師

課題 4 は環境 NGO の役割について出題した。この課題について言えば平均は 17 点（百点満点に換算して 68 点）であった。

100 人いれば 100 通りの答えかたのできる課題である。与えられたテーマを「どれだけ自分ごととして捉えることができたか」が点数の差となって現れたように思われる。環境問題に取り組む人や NGO において就業体験やボランティア活動を経験した人が増えている。自らの経験に基づいてレポートをまとめた者も少なくない。経験は宝であるが、磨き上げなければ輝かない。優れたレポートの書き手は、講義内容と自身の体験を照らし合わせて「どうすれば、もっと良い社会を築くことができるか」と自問してきた跡が読み取れた。

持続可能性にかかわる諸課題にも唯一絶対の正解はない。私たち一人ひとりが正面から課題と向き合い、葛藤を繰り返しながら解決していくしか道はないのだろう。実践とふりかえりを繰り返しながら「正解」を目指す諸君に必ず光が差す。これからも学びと行動を続け、よき未来を生み出す力を育ててほしい。